

教育的価値	具体的項目	教育課程
2[かかわる]	⑫[自分と地域社会] 自然災害が、暮らしの変化や地域経済に与える影響について理解し、自分と地域社会との関係について考える。	総合的な学習の時間
3[そなえる]	⑮[東日本大震災津波の様子と被害の状況] 東日本大震災津波の様子と被害の状況を理解する。	

[題材] 被災地訪問 陸前高田市～釜石市・大槌町
[対象] 前・後期生徒会役員
社会福祉協議会ボランティア参加希望の1年生

[実践の概要・詳細]

1 ねらい

・被災地を訪問することにより震災をあらためて理解し、自らのあり方を考え、復興・発展に向け取り組むきっかけとする。

2 期 日 平成25年10月26日(土)

3 場 所 陸前高田市～釜石市(鵜住居)

4 日 程

7:00 雫石中学校発

9:00 陸前高田着

(陸前高田観光ガイド部会)

・説明

・市内見学

(気仙中学校・雫石中ボランティア活動場所の見学等)

11:00 見学終了 高田発

12:00 釜石着 昼食

13:00～大槌町 大槌中学校見学

釜石市内見学(釜石市場跡 浜町 両石)

鵜住居:鵜住居防災センター 釜石東中生の避難経路の見学

「旧釜石東中ーございしょの里ーヤマザキデイサービスホーム」

15:00 「JR釜石駅」でボランティアとお別れ

17:00 雫石中着



生徒の感想

防災や安全について[そなえる]

○東日本大震災の津波は、想定をはるかに超えるものだったので、自分で判断して行動する強い意思を持ち、最善をつくせるような日頃の意識をもっていたと思った。

○今回の地震は1000年に一度といわれる地震で、大きな被害をもたらした。しかし、この災害で改善点が見つかった。これを教訓にこれからの日常をすばらしいものにしていきたい。

○今回のことを記録し、後世に受け継ぐことが大切だと思った。また、僕たちに置き換えると、失敗の経験を成功に活かすことが大切ということだと思う。

地域と[かかわる]

○震災の時、釜石東中学校の生徒が、小学生の手を引いて走ったという話を聞いて、地域の人同士の強いつながりを感じ、とてもすばらしいと思った。

○地域で協力して、助かったという人達もいる。人とのつながりは失ってはいけない。

○仲間や地域のつながりはとても良いものだと思う。どんな時でも励まし合える、そんな集団になりたいと思った。

○仲の良い仲間はもちろん、お互いをよく知らない、顔見知り程度の地域の人も、とにかくコミュニケーションをとって、いつ、どこで、何があっても助け合っていくことが大事だと思った。



復興・復旧へ「かかわる」

○2年半経って、私たちの記憶から薄く遠いものになってしまっている。忘れない。伝えていく。この2つが私たちにできること、しなければならないこと。

○まだまだ復興には時間がかかるし、お金もかかる。簡単に「がんばろう」だけではすまないくらいの被害を受けた。しかし、一人一人が協力し合えば、時間はかかってもきっと強い町になると思う。

○長い年月や費用がかかるが、復旧・復興に向け、地域が、県が、国が一丸となっている。とてもすごいことだと思った。

○陸前高田では「桜ラインプロジェクト」という、津波の恐ろしさを目に見える形で伝えるプロジェクトの話が持ち上がっているという。町を元どおりの姿に戻すだけでなく、二度と繰り返さないようにすることが本当の復興なのだと思う。

○完全に立ち直るにはまだまだ時間と費用が足りないが、人々の力はものすごいので、必ず元の街並みに戻ると思う。

